

平成30年度 門川町立門川小学校 学校関係者評価書

学校の教育目標「自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子どもの育成」

重点目標〔 1 基礎学力の定着 2 基本的な学習習慣の定着 3 読書活動の推進 4 基本的な生活習慣の定着 5 学校・家庭・地域が連携した教育の推進 〕

【 4段階評価： 4～期待以上 3～ほぼ期待通り 2～やや期待を下回る 1～改善を要する 】

重点目標	目標達成のための手段(評価指標)	学校の自己評価(分析・考察・改善策等)	自己評価	関係者評価	学校関係者評価【意見・感想・改善策等】
1 基礎学力の定着	(1) 分かる・できる授業の充実	△ 校内研究や学習指導部の取組等により学力向上に取り組んできたが、CRTの結果は国語・算数共に前年度の数値を下回った。特に国語は前年度より0.4ポイント低下し、ここ数年伸び悩んでいる。算数は上向きの傾向にあったが、今年度は前年度より0.3ポイントの低下となった。全国平均より1ポイントは高いが足踏み状態である。また下位層の割合が増加しており、次年度はより一層、学力向上への取組に尽力していく必要がある。	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ CRTにおける国語の得点が低いことが気になる。読書後の感想を話し合わせたり、新聞投稿させたりして、読解力の向上を図って欲しい。 ・ 「評定1」出現率の増加が気になる。中学校の数学ボランティア同様、小学校への算数ボランティアを導入することを検討したらと思う。 ・ 「分かる、できる授業」として、少人数指導やオープンスクール等の取組が効果があると思う。 ・ 児童が数値目標を立て、自己評価をしながら動力を継続させることが、学力向上に繋がると思う。 ・ 子どもたちや家庭にも学力低下についての事実伝え、学校と家庭が一緒になって挽回を目指して欲しい。 ・ わからないことがあると「学校で習ってない」と言い逃れする傾向がある。学力テストでは計れない目に見えない学力(率先して調べようとする力、興味関心をもつたものを深く追求する力等)も身に付けさせて欲しい。
	(2) 学習内容の定着を図るための補充指導の充実	○ 授業における学習態度指導の徹底及び家庭学習の習慣化と内容の充実については、児童の意識も向上しており、今後も家庭との協力を高めながら、一層の定着を目指し取り組んでいく。 * CRT(標準学力検査) ・ 平均得点率の全国平均との差(点) [目標値]国語±0・算数±0 H30: 国語△-2.2・算数○1.0 (H29: 国-1.8・算1.3) ・ 評定1出現率(%) [目標値]国語10.0%以内・算数10.0%以内 H30: 国語△18.8%・算数△14.3% (H29: 国10.2%・算10.5%) * 児童自己評価「ほぼ毎時間しっかり聞いている」 [目標値]95%以上 → H30: △94.8% (H29: 94.7%) * 児童自己評価「宿題・宅習: ほぼ毎日提出している」 [目標値]95%以上 → H30: △94.5% (H29: 93.7%)			
2 基本的な学習習慣の定着	(3) 基本的な学習習慣の定着	○ 児童の図書委員会や読み聞かせボランティアの活動等により、読書冊数が増えてきた。図書室の利用もさらに推進していく。 * 1か月の読書冊数[目標値]25冊以上 H30: ○33.8冊 (H29: 29.5冊) * 1年間の年間貸出冊数[目標値]30冊以上 H30: ○34.2冊 (H29: 38.7冊)	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の読書環境は素晴らしい。継続して欲しい。 ・ 読書活動は重要である。今後も努力して欲しい。 ・ 読書冊数、貸出冊数ともに目標値を達成し、大変良い傾向だと考えられる。しかし、基礎学力の下位層の児童の読書量が気になる。そういう児童への手立てをとることが、学力向上につながると考える。
4 基本的な生活習慣の定着	(5) 学校における基本的な生活習慣の定着	○ 児童の委員会の呼びかけや教師の指導等により、児童の意識は向上してきている。しかしまだ十分な定着がなされておらず、さらに日常指導を徹底していく。 * 児童自己評価 「ほぼしっかりとやっている」[目標値]85%以上 ・ あいさつ: ○91.3%・ろう下歩行: △80.3% ・ 無言清掃: ○90.3%・整とん(くつ箱): ○92.6% ・ 整とん(トイレスリッパ): △84.3%	2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内でのあいさつは良いが、朝の立番では上学年になるほど、あいさつのできない児童が多い。 ・ 門川小児童のあいさつは、町内のほかの小学校に比べて、元気と明るさがまだ足りない。 ・ 項目ごとの自己評価にばらつきがあるので、さらなる指導の徹底を図り、児童への基本的な生活習慣の定着に力を入れて欲しい。 ・ 家庭、幼児教育(幼、保)との連携も大切である。
	(6) 家庭における基本的な生活習慣の定着	○ 「子どもの成長を支え育む“かどがわ4か条”」ポスターを全家庭に配付し、共通実践事項としてメディアに関する約束と家読の時間設定に取り組んだ。目標達成までには程遠いが、家庭への意識付けは図れたと考えている。今後もPTAと連携しながら家庭への啓発を図っていく。 ○ ラジオ体操については、地域の協力者が増えている。今後もPTAと連携を図って啓発していく。 * 家庭における共通実践事項の家庭自己評価 ・ メディアに関する約束の設定「設定している」 [目標値]全校80%以上 → △69.3% (H29: 72.3%) ・ 家読の時間の設定「設定(週3～月1)している」 [目標値]全校60%以上 → ○71.4% (H29: 57.7%)			
5 学校・家庭・地域が連携した教育の推進	(7) 家庭における共通実践事項の取組の推進		2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現代は、メディアと上手に付き合っていく必要がある。まずは身近な目標を設定し、できることから実践していくと良い。 ・ PTAとの連携が重要である。 ・ 今回、「かどがわ4ヶ条」が下学年、上学年、中学生の3つの発達段階に合わせて改訂されたのが良かった。より密に指導ができると考える。 ・ ラジオ体操は、PTAが地域を巻き込んで、運動場を埋め尽くすぐらいの計画をして欲しい。 ・ 自分のことは自分ですることや身の回りの整理整頓等基本的な躰をしっかりとっていくことが大切。
総評	児童の実態を十分把握しながら、きめ細かい指導があらゆる分野でなされ、その結果も評価という形できちんとなされている姿に、町民として感謝したい。指導の成果が期待したようなものでなくとも、(昨年度より低かったとしても)必ずや目に見えないところで芽吹いていると思う。今後も更なる児童の成長を願い、継続指導をお願いしたい。子どもたちの教育は、なかなか成果が表れにくい、「明日の日本をつくるのは、子どもたちである。」という意識をもって、教師が自信と余裕をもち、気長に育てて欲しい。				